

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立神戸高等学校)



1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」 ○ 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 新たなことに積極的に挑戦する「気概」と、困難に立ち向かう「勇気」を持つ生徒 ○ 自主自立と協働の精神にあふれた社会で活躍できる生徒
	ありたい 教職員像	「生徒の育成」を願い、授業の充実や学校運営に進取の「気概」を持ち、「知恵」を絞ると共に「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境 〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり 〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	
		連携する相手への要望・期待	
		〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導 〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成 〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義 〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成	〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築 〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力 〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立 〈地元大学〉 高大連携の充実・促進
(3) 前年度の学校関係者評価等		○入学直後どうしても「緩み」があるのではないかと。入学直後から動機付けと振り返りができる継続的な「キャリアシート」のようなものを活用してはどうか。 ○神戸高校を選択する中学生・保護者とも「卒業後進路先」を強く意識して選択しているので、希望進路の実現をより高めるよう対策を講じてほしい。 ○生徒の心身の健康は大切である。特にメンタル面は早期の対応を大切する必要がある。 ○教科指導の面でも情報共有は大切である。学年や教科によってうまくいっている取組などを共有し組織としての強みとできるとよい。 ○先生方は忙しすぎる。本来計画があれば PDCA サイクルで改善するべきであるが、やるべきことがあまりにも多すぎるのではないかと。精選していくことも必要。	
(4) 現状と課題	教育活動	【現状】 ・新型コロナウイルスに対する感染予防を徹底することで、生徒には安心安全な学校生活を提供することができている。 ・生徒は一定の学力を有して入学してくるが、期待する学力の向上や進路実現につながっていない。 ・(コロナ禍が追い風となり、)GIGA スクール構想におけるICT環境が一挙に整備された。 【課題】 ・未だ治まらない新型コロナ感染症に対し、引き続き感染予防を徹底していく必要がある。 ・自らの進路や学力向上に対し、早期から意識付けを行うとともに、CS の効果的な運用などにより生徒の学習へのモチベーション向上を工夫する必要がある。 ・授業での効果的なICT活用を進めるため、研修や対策が必要である。	

	学校 運営等	【現状】 ・今年度は 1 クラス減でスタートし、それに伴って教員数も減じられており、分掌配置・クラブ顧問配置など工夫せざるを得なくなった。 ・教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組み、一定の成果を上げているが、個々の教員や学年単位での取組に偏る傾向がある。 ・令和 4 年度からの新学習指導要領開始に向け、新教育課程を策定し準備を整えている。 【課題】 ・クラス減によるダメージを最小限に抑えるとともに、教員数減により過重労働が増えないようにする必要がある。そのために委員会や会議の精選やスクラップを行い、全体の仕事量の削減を図る必要がある。 ・横の連携や縦の情報共有を進め、組織的な取組、成果となる体制づくりが必要である。 ・新教育課程では、45 分授業 35 単位から 50 分 34 単位となり、校時や清掃回数も変更となるため運用面の検討が必要である。
--	-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができるシステム構築を目指します。 ○生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期からの進路意識向上に努め、国公立に100名程度合格できる進学状況を目指します。 ○生徒の生活習慣向上とともに、自主性・積極性を引き出すリーダーシップ教育に取り組みます。
学校運営等	○授業内容の改善やICTを効果的に活用した授業力向上に組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の授業満足度理解度を向上させます。 ○新学習指導要領および高大接続改革に対応した、令和 4 年度からの新教育課程をスムーズに実施できるよう検討を進めます。 ○学校の魅力化をすすめると共に学校からの情報発信を強めます。また、職員の仕事満足度の向上や働き方改革に努めます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
安全安心な 学校生活	○安心安全教育の充実 新型コロナウイルスへの対応、交通事故防止、命を大切にする教育、いじめ防止など 【活動指標】 ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策の徹底 登下校指導、交通安全対策の実施 いじめアンケート実施 2 回/年 命を大切にする講話、ネットモラル講和等実施 3 回以上/年 【成果指標】 (クラスター含む)学校内でのコロナ感染者0人 生徒交通事故 10 件以内(昨年度 15 件) 特に重大事故及び生徒過失による事故 0 件 いじめ重大事態0件 SNS 問題行動 3 件	○学校内でのコロナ感染者 0人 (コロナ感染者10名(6月1名、8月2名、1月5名、2月2名)) ×生徒交通事故 12件 (自転車:11件、バイク:1件)←いずれも軽症(生徒の過失による事故件数:0件) ○いじめ重大事態 0件 いじめ認知 4件(1年2名、3年2名) 内 SNS に関する問題行動3件←「いじめアンケート」から	◎

将来を見据えた 学力の向上	○授業の充実や Challenge on Saturdays(CS)の効果的な活用による学習習慣の定着及び基礎学力向上 ○生徒の自主性・積極性を引き出すリーダーシップ教育 ○探究的活動(理数科課題研究 普通科「鈴鹿学」)の充実 【活動指標】 校外で実施される諸活動等への自主的参加促進、 CSの計画的な実施(年間20回) 生徒授業評価2回・家庭学習調査4回実施 課題研究・鈴鹿学のポスター発表及び学習成果発表会の実施 読書活動の促進(図書館利用の数値化) 【成果指標】 授業満足度・理解度 50%(Top Box) 学習時間 15時間/週 50%以上 学びの基礎診断(スタディサポート GTZ)B1 ↑ =50%以上 科学探究フォーラムでの入賞 3チーム以上 図書館来館者数 5,000人以上/年(新規)	授業満足度・理解度(3月調査) ×理解度 39.5%(①44.7②34.39) △満足度 50.1%(①60.1②40.2) △学習時間(2月実施) ×1年 30% ○2年 65% (1年 37% 2年 26%) ×直近模試 GTZ(1月実施) 1年 ×国 B2(B2) ×数 B2(B2) ×英 B3(B3) 2年 ×国 B3(B3) ×数 B3(B3) ×英 B3(B3) (未)科学探究フォーラムでの入賞 2チーム出場(動画視聴の上審査) △図書館来館者数 4,076人(1月末)	※
進路指導・ キャリア教育 の充実	○キャリア教育の充実 ○生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現 【活動指標】 キャリア教育プログラム(特にコアプログラム)の計画的な実行 探究活動(課題研究・鈴鹿学)の成果を生かした進路実現(国公立大総合選抜・学校推薦型選抜入試)ガイダンス等の適時実施や情報提供 1回以上/月 【成果指標】 校外での体験活動等への参加 5回以上/年 国公立大総合選抜・学校推薦型選抜合格者 30人 国公立大学合格 100人以上(現役・卒業生合算)	○校外での体験活動 ・三重県科学オリンピック→10/16(土) ・名工大訪問 →7/26(月)35人 ・三重大学高大連携サマーセミナー等 →98人(オンライン) ・神中土曜スクール(授業アシスタント) →12/11(土)55人 ・神戸小実験授業→3/8(火) ・看護実習(中止) ・歯科医師ヘインターンシップ(中止) ×国公立大総合選抜・学校推薦型選抜合格者→10人(出願者36人) (未)国公立大学合格(年度末)	◎
部活動の 充実	○部活動の振興と部活動を通じた人材育成 【活動指標】生徒の部活動加入 85% 3年間継続 80%以上 【成果指標】東海大会以上出場クラブ数 5以上	○東海大会以上出場クラブ数 5(山岳、陸上、水泳、放送、吹奏楽)	※

改善課題

○安全安心な学校生活

- ・新型コロナウイルスに対する徹底した感染予防が功を奏し、部活動含む校内での感染拡大は防ことができた。
- ・いじめについては、アンケートで顕在化した事例があったが、担任・学年・生活指導部の丁寧な指導で現在は解消している。

○将来を見据えた学力の向上

- ・普段の授業に加え、課外授業や CS などに真面目に取り組んでいるが GTZ が思うように上がってこない。
- ・授業以外での平均学習時間が安定していない。

○進路指導・キャリア教育の充実

- ・コロナ禍ではあったが、比較的校外での活動は活発に行えた。
- ・国公立大総合選抜・学校推薦型選抜合格者が目標を大幅に下回っている。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	○教科会による組織的定期的な授業研究の実施 ○新しい学力観, 評価, 高大接続, 人権教育等の研修会を実施 ○効果的なオンライン授業のためのICT環境の整備、活用 【活動指標】 教科会等組織的な授業改善取組の実施指導に関わる研修会の実施 2 回以上、校外研修会(入試問題研究会・授業力セミナー等)への参加教員 1 人1回以上 電子黒板機能付プロジェクターの教員活用 75% 生徒による授業評価を 2 回実施 【成果指標】 職員満足度調査の研修項目肯定的意見 70%以上 主体的な活動・思考に関する肯定的評価 90%以上 生徒の基礎学力向上 GTZ 平均 B1 以上の維持 指導方法に関する肯定的評価 50%以上(TopBox)	△職員満足度調査 ×研修項目肯定的意見→56.7% ○主体的な活動・思考に関する肯定的評価→90.7% ×GTZ 平均 B1 以上の維持 1年 ×国 B2(B2) ×数 B2(B2) ×英 B3(B3) 2年 ×国 B3(B3) ×数 B3(B3) ×英 B3(B3) △指導方法に関する肯定的評価 【生徒】49.5%(①59.4②39.7) (3月調査) ×【教員】26.7%(肯定的 90%)	※
	○5年先を見据えた学校の魅力化及び発信力強化 ○ICTの有効活用		※

教育改革対応 及び学校運営 全般	○生徒・保護者・地域から信頼される学校づくり ○創立百周年事業の円滑実施 【活動指標】 教育改革推進委員会実施、HPでの更なる情報発信 Google Meet を効果的に活用したHR・会議の実施 Classi による通信配信及び各種アンケートの実施 新たに策定した「信頼される学校であるための行動計画」の確実な実行 同窓会(樟友会)との緊密な連携 【成果指標】 5年先を見据えた新たな魅力の創造 後期選抜受検倍率 1.3 倍確保(昨年度 1.25 倍) Classi 活用肯定的評価 75% 教職員による不祥事ゼロ	×5年先を見据えた新たな魅力の創造 →若手教員によるプロジェクトチームの結成(次年度) ×後期選抜受検倍率→1.18 倍 329人(普 175 人、理154人) (H29:1.29 倍、H30:1.31 倍、H31:1.16 倍、R2:1.26 倍、R3:1.29 倍) (未)Classi 活用肯定的評価(※今後調査) ○不祥事 0 件	
働きやすい 職場づくり	○風通しが良く何でも言い合える職場づくり ○時間外勤務の削減と働きやすく働きがいのある職場づくり 【活動指標】 職員間の意見交換機会の実施 職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施 定時退校日 12 日以上・定時退校者率 90% 以上 会議時間 1 時間以内 90%以上 全部活動休養日週 1 日以上 90%以上 【成果指標】 一人当たりの月平均時間外労働 20 時間以下 年間 360 時間を超える時間外労働者 0 人 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 1 人当たりの年間休暇取得日数 18 日以上 職員との対話増進、職員満足度の向上 【活動指標】 職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施 【成果指標】職員満足度 30%以上(Top Box)	【活動指標】 △定時退校日 → 9 日 ×定時退校者 →87.3% ○会議時間 1 時間 →100% ○全部活動休養日 →100% (以上 12 月末現在) 【成果指標】 ×月平均時間外労働 →21.3時間 ×月 45 時間を超える時間外労働者のべ 88 人 ×年間休暇取得日数 →14 日 ○職員満足度→31%(Top Box)	◎

改善課題

○教員の指導力向上

- ・「スキルアップのための研修等に十分参加できたか」の回答結果(できた 11.7%、どちらかというときできた 45%)
- ・「授業等学習指導面について充実していたか」の回答結果(該当する 26.7%、どちらかというとき該当する 63.3%)

○教育改革対応及び学校運営全般

- ・5年先を見据えた新たな魅力の創造のためのアクションが起こせていない。
- ・後期選抜受検倍率は 1.18倍と過去5年間でも下から2番目の倍率。

○働きやすい職場づくり

- ・月 45 時間を超える時間外労働者が毎月一定数存在する。・1 人当たりの年間休暇取得日数が目標より少ない。

5 学校関係者評価

明らかにになった 改善課題と次へ の取組方向	○中学校を卒業して私学や高専、あるいは通信制など多様な進学先へ流れる生徒が増えている。つまり、学力の2極化は中学校でもあり、進学への意識の高い生徒と、普段から様々なサポートが必要な生徒がいる。先行き不安定な時代の中での「学力」とは何かを整理した上で、中学校や保護者に向けて発信してもらいたい。 ○企業においてもテレワークなど働き方が変わってきている。在宅勤務はよほど自分を律していないと成り立たない。オンライン授業の難しさを想像するし、2極化も進むのではないかと危惧する。進学校として学習時間の少なさが心配。最低でも目標(学習時間 15 時間/週 50%以上)をクリアできるように工夫してもらいたい。 ○教育相談における相談内容や相談件数などはできる限り「見える化」して関係職員で共有して早期に解決していくのが良い。1年次から「キャリアシート」のようなものを用いて生徒が自ら目標や進捗を「見える化」しながら進めるようになると進路意識の醸成につながるのではないかな。 ○心の問題については、家庭環境が大きく影響することや時間がかかることも多い。これまで以上に学校と家庭が連携して取り組む必要がある。
---------------------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	・課外授業や CS などの取組が学力の向上にどの程度の効果があるのかを数値等で検証する必要がある。検証の結果、効果がないと判断したものは思い切ってスクラップする。 ・先行き不安定な時代の中での「学力」の基礎となる探究活動の「鈴鹿学」や「課題研究」をさらに充実したものにする必要がある。その結果として国公立大総合選抜・学校推薦型選抜入試にも有利となる。 ・最近の傾向として、学力の二極化が目立ってきている。今後もこの傾向は続くと思われるため、特に下位層の学時間の確保や生徒自身が目標管理しながら進路意識を高めていく工夫を講じながら学力を高めていく必要がある。 ・新学習指導要領に対応した授業改善、学習評価の改善、1人1台端末を前提としたICT教育の効果的な実践が求められる。 ・教育相談体制と取組の充実を図る必要がある。
学校運営について の改善策	・新たなことが次々に始まってくことで、過重労働を防ぐためにも積極的なスクラップを図る。 ・スクールポリシー(アドミッション・カリキュラム・ディプロマ)の策定を含む「5年先を見据えた新たな魅力の創造」のためのプロジェクトを発足させる。 ・年休が取りやすい(遠慮なく休んでもいい、むしろ休むべきという)環境を整え、心身ともにリフレッシュする時間を創出する。